序 章

改善とは機能的で優美であること

A Manual of
Landscape Design

はじめに

景観デザインの基本は「風土と伝統を活かして未来をつくる」ことにある。景観はその国の民度を現し、美しい環境・景観は幸せな暮らしの基盤となる社会的共有資産であり、次世代へ引き継がれていくものである。

わが国の景観の現状は、ここに至った様々な経緯と問題があり、その解決には大きく二つの課題がある。先ずわが国に相応しい目指すべき大景観のビジョンを明確に示すこと、次にそのビジョンに法って身近なくらしの景観を具体的に改善することである。その要素は広く公共の空間を構成する対象と、民間の空間を構成する建築物・付属物がある。だが景観は人の視覚範囲の全てであり、本来は行政区画も何の境界もなく、領域分野を超え連携し、両者を総合的に一体として捉えることが前提になる。

中部地方整備局では、平成６年「公共空間のデザイン」、平成８年「シビックデザイン」の出版をはじめ、その後も幾つかの節目となる景観対策を段階的に続け、景観の向上を目指してきた。この度は「デザイン・色彩」について、景観アドバイザー会議で議論を重ね、基本となるあり方を、より具体的に提示したものである。

わが国の景観の現状は、都市的環境と田園・自然環境が無秩序に広がる混乱した状態にあり、暮らし環境の乱雑な景観、街並み・電柱や看板などの雑然とした状況は、文化国家として、観光立国としても改善すべき大きな課題である。

わが国の文化は古来自然と共存の調和を旨とし、基底となる縄文文化の上に弥生文化が、さらに大陸文化の影響を受けながら、室町時代には、わが国独自の簡素・抽象的で深遠な造形文化に到達した。世界に先駆けたその造形文化は、江戸期まで都市・田園・造園・橋梁・建築・地域産業・芸術全般に行き渡り、世界から賞賛され、多くの影響をも与えてきた。しかしその美意識は明治の近代化、殖産興業、人口増加による野放図な大地の利用により著しく変貌し、伝統文化の拠り所も希薄になり、景観においても混迷の度合いを深めて来た。

景観デザインには物理的機能と同時に、人の生理的・心理的・哲学的側面を満たす機能がある。それは幸せな社会生活に必要不可欠なものであり、今後の取り組みの基本は、まさに「改善とは機能的で優美であること」に尽きる。

国土交通省関連の事業は、わが国の景観に範を示す役割があり、省庁分野の枠を超え、景観デザインの総合的な取り組みが一層進展することを期待したい。

中部地方整備局　景観施策アドバイザー会議　座長　　林　英光

色彩・デザイン

景観を構成する社会資本の色彩・デザインに取り組むにあたり、幾つかの要点を述べる。景観デザインは、取り巻く環境全体を俯瞰し、対象の位置づけを確認することから始まる。デザインは単に色彩や形態のことではなく、まず思想や機能の根拠を元に最終成果が環境全体と調和することにある。

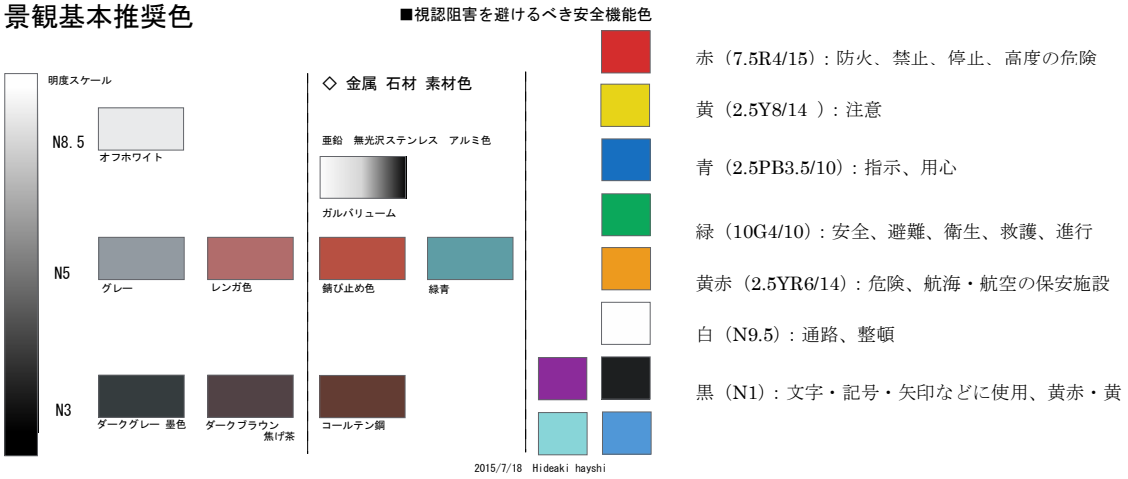
公共環境の色彩・デザインは中庸の調和を追求することである。中庸のデザインとは無難・平凡ではなく、高度な感性を要するデザインの真髄である。

わが国の景観は古より風土と調和し、歴史と伝統に磨かれた白・黒・グレー・自然素材色を主体とする「色彩・デザイン」が基本である。それは江戸末期から明治初頭にかけて、わが国が世界に影響を与えた造形美術文化の特質を踏まえ、現代の思想・技術・工法・素材を用い、景観デザインを進めることである。白黒のモノトーンの概略デッサンから始め、構図・構成・造形を練り色彩が加わる。それは身の回りの室内から屋外へ、公共環境に及び、白黒グレー自然素材色の簡素で豊かな、優れた日本の伝統的ものづくりの継承につながる。

風土・伝統と安全機能の色彩

戦後の日本の景観は、世界で最も混乱した悲惨な状態にあり、私達はその状況に慣れ、さほどに思わないのが実態である。この状況を糺していくには、自国の風土と伝統文化の原点に立ち戻り、公共環境のインフラのあり方をデザイン・色彩においても明確な大元をシンプルに示し、そこから民地の街並み建築物・付属物のあるべき姿を再構築することが順序になるであろう。

先ず伝統的な素材と色彩と金属等の自然発色素材と、JIS の安全機能色を阻害しないことが基本になる。世界の公共環境は、アスファルトの黒に、白・黄橙の線が基本であり、次に標識の赤・黄・緑・青・白、信号機の赤黄青など、暮らしの安全を守る機能色がある。現代の社会では安全機能の視認性を阻害しないことは最優先であり、色彩をむやみに増やすことは、視覚情報の判断要素を複雑にすることになる。色弱者にとっても白黒黄橙が明度差ともに視認しやすい色彩であり、アスファルトの黒は経時変化で自然石の骨材が現れ、環境に馴染み、補修後の変化もむしろ美しい。亜鉛メッキやコンクリートの舗装や縁石、法面ブロックも同様である。無彩色のインフラは、街並みや背景となる空の青と水辺の青、山並みや植物の緑、四季の自然の変化を阻害せず人間活動に美しく調和し引き立てる。道路・歩道環境の過剰なカラー舗装・設備等の色彩は、良好な街並みや景観形成を阻害する。そして四季の自然、イベントや人々の姿が美しく映える景観は、街並み・建築物・看板・付属物等が視覚判断を阻害しないように、JIS 安全機能色の近似の色相・彩度を避けることが基本になる。



伝統的素材色と金属等自然発色素材と暮らし環境を守る安全機能色